

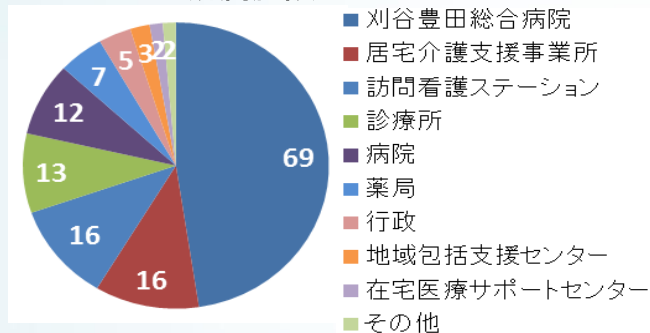
# 急性期病院と在宅医療現場の連携



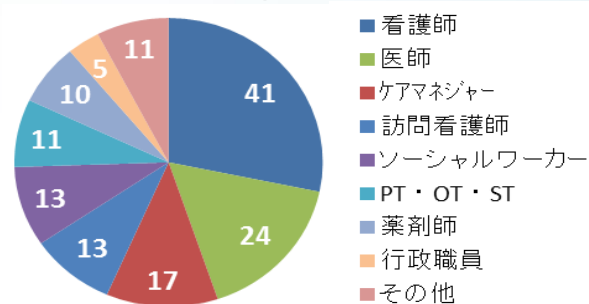
## ◆ 研修会テーマ ◆ 「がん患者の在宅療養を支える」

## ◆ 参加者内訳 ◆ (参加者数:145名)

所属施設 (人)

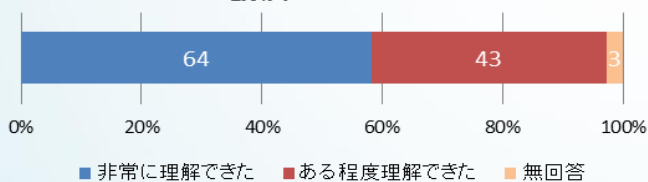


職種別 (人)

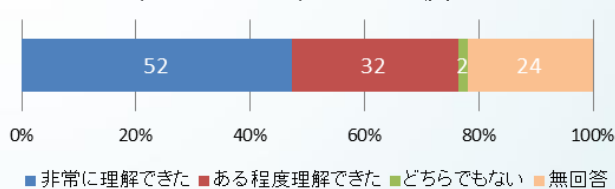


## ◆ アンケート結果 ◆ (回答者数:108名)

講演について(人)

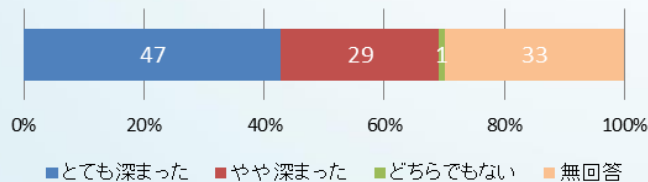


グループワークについて(人)



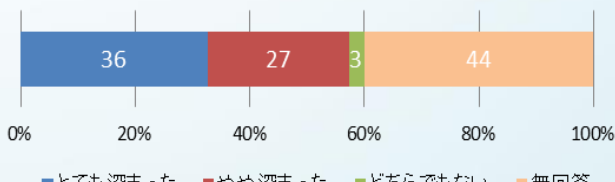
### <病院スタッフ>

在宅医療・在宅ケアへの認識(人)

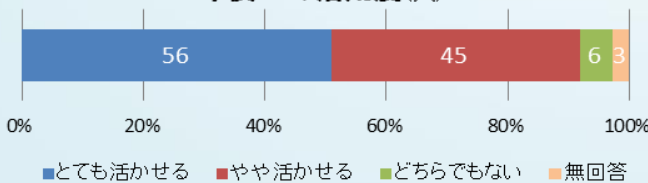


### <在宅スタッフ>

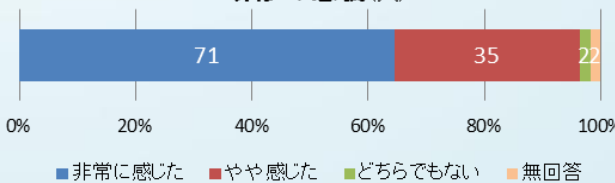
病院医療・退院支援についての認識(人)



今後への活用度(人)



研修の意義(人)



今後も継続して多職種参加の研修会を企画してまいりますので、是非、ご参加下さいますようお願い致します。

## ◆ 研修会に参加して ◆



この度、“第2回 病院での在宅医療連携研修会”に参加させていただきましたが、その理由は2つあります。1つ目は、私が4年前まで肝・胆・膵を含む消化器癌や乳癌などの手術、化学療法、緩和ケアに従事していたこと。2つ目は、患者さんが在宅に移行する前の在宅医を含むミーティングになかなか参加できないことです。実際のミーティングがどのような内容で行われているのか、模擬体験ができるかと期待しました。

実際に参加してみて、開業医としての経験が浅い私には、医療制度や訪問看護ステーションの考え方、患者さんへの接し方など勉強になる点が多々ありました。刈谷豊田総合病院の医療連携室の皆様とお会いできたことも大きな収穫でした。また機会がありましたら、参加させてください。

医療法人 藤樹会 院長 藤澤 稔

医師を含めた各職種の様々な意見を伺い、訪問看護師としての立場で日々直面している事を聞いて頂く機会を得て、大変有意義でした。

在宅療養において、ご利用者様の病状や心の変化にともない、ご家族様も色々な思いがあります。その変化に気づき関わってゆくことで、人生の豊かさが変わるのではないかと日々感じております。職種をこえて、相談し合える“つながり”がたくさんできていくことが、地域での安心した生活につながっていくものだと思います。

「利用者様のことを想う」という同じ方向に向かい、今後もこのような研修会を設けていただきたいと思います。有難うございました。

三河訪問看護ステーション ちあい 看護師 福永 利恵子



在宅での緩和ケアについての講演後、本人が望む生活を実現するためにどのような関わりができるかを多職種・多機関のグループで話しあいました。在宅生活を考える時に、サービスや制度のことが話の中心になってしまいがちですが、本人だけでなくご家族も安心して生活できるために、入院中から在宅生活を意識した準備や関わりについて話しあう中、お互いの立場や職種の理解をするきっかけにもなりました。

普段は関わりが少ない機関の方とも話ができ、お互いの役割について確認できました。住み慣れた地域(在宅)で安心して過ごすためには多機関・多職種の連携が大切であると改めて感じる機会になりました。

刈谷中部地域包括支援センター 主任CM 倉川 叔子



講演では訪問診療をされている医師の立場からお話があり、病院勤務の私には、訪問診療の実際を具体的に聴くことができ、勉強になりました。

グループワークでは一つの事例に対し、勤務医やかかりつけ医をはじめ、病院と地域の様々な職種が患者の在宅療養を検討し、それぞれの専門知識や役割、価値を持って意見を出し合いました。一人の患者・家族に向き合う参加者の皆さんに感銘を受け、とても有意義な時間となりました。

超高齢社会を迎え、さまざまな問題の中、患者さんは人生の最期をどう過ごすのか…、正解はありませんが、これからもこの地域の医療・介護職の皆さんと一緒に考えていけたらと思いました。

刈谷豊田総合病院 MSW 高麗 彰子

